2013年（平成25年）12月2日号
NO.2609（毎週月曜日発行）
株式会社 週刊住宅新聞社
本社 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル
TEL.03(5363)5810 FAX.03(5363)5815 郵便振替口座 00120-5-83424
発行人 長尾 浩章 昭和35年5月10日 第三種郵便物認可
http://www.shukan-jutaku.com/
週刊住宅

倉庫業者が考える

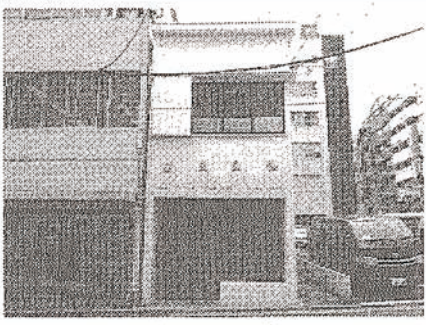
ビンテージ倉庫活用法⑤

相性がいいアート系ビジネス

ニューヨークSOHOを手本に

前回、建築家が倉庫を好み、リノベーションして事務所にしている例を挙げた。他にも私の経験上、アート系のビジネスと倉庫は相性がいいようだ。

例えば、築50年の元繊維倉庫をリノベーションした東京・日本橋馬喰町のアートギャラリー・レントゲンヴェルケ＝写真中央の倉庫。ギャラリストの池内務氏は、1990年代に村上隆ら、のちに日本を代表する現代アートのアーティストが集ったギャラリー・レントゲン藝術研究所で、初めて倉庫リノベーションギャラリーを実現した。現在のギャラリーは2件目の倉庫リノベーション物件という倉庫フリークだ。



池内氏にお聞きしたところ、倉庫は大型美術作品も展示できるスペースの広さという実用性がある。そして、どんなアートでも受け入れてくれる懐の深さを想起させ、アートギャラリーにぴったりなのだそうだ。

アート系の職業の人は、世界的にも有名な高級ショッピング街となっているNYのSOHO地区への憧れを持っている場合が多い。同地区は、アーティストがビンテージ倉庫（築年数の経った倉庫）をアトリエとして利用し、個性的な物件に生まれ変わらせ、ギャラリーなど美術関係者が集積したことで、街が活性化していった。

港区芝浦で、ピアノサロンを運営するピアノフォルティのアレック・ワイル社長もそんなソーホー地区への憧れを持つ一人。同社は量産はせず、高級グランドピアノのみを制作することで知られるピアノメーカー、FAZIOLI（ファツィオリ、イタリア）の日本総代理店だ。

築40年のビンテージ倉庫の一部をリノベーションし、特別なピアノのための特別な空間づくりがなされている。現実的な面でも、大きくて重いピアノを搬入するには、大型エレベーターがあり床荷重もしっかりしている倉庫物件はうってつけだ。

アレック社長は、「芝浦付近はもともと大型倉庫が集まっている場所だったが、最近は住宅や店舗が増えている。1960年代後半ニューヨークのSOHOが、さびれた倉庫街からアーティスト達の活躍で注目され、高級エリアになったように、芝浦も倉庫リノベーションをきっかけに日本のSOHO、東京の文化の中心になる可能性を秘めている。われわれはそのパイオニアだと自負している」と話している。そんな夢を語られると、倉庫業者としても今まで大事な職場として愛してきた倉庫をより夢のあるスペースとして活用してもらえて嬉しくなる。

芝浦にはビンテージ倉庫の一部を真っ白なダンススタジオにリノベーションした建築家の福田友一氏のStudio ARCHITANZ（スタジオアーキタンツ）もある。倉庫ならではの柱間の広さ、天井の高さを生かした国内でも有数のダンススタジオで、国内外のカンパニーで活躍している有名ダンサーも利用している。

一見無骨なビンテージ倉庫で様々なアーティストが作品を生み出し、発表しているとは、なんとも夢のある話ではないか。客付に悩むようなビンテージ倉庫も、別の視点から見れば宝の山なのだ。

大谷巌一（おおたに・いわかず）＝イーソーコドットコム会長。著書に「物流改善Q&A物流ソリューションのためのヒント集」（日刊工業新聞社、共著）、「これからは倉庫で儲ける！！物流不動産ビジネスのすすめ」（日刊工業新聞社）などがある。